

第3回URAシンポジウム 第5回RA研究会
 RA-S06 人文社会学系への
支援のあり方
 ～リエゾンパーソン～

OSAKA UNIVERSITY
 2013年11月19日 (火)
 大阪大学大学院法学研究科
 特任研究員 山田 綾子

所属組織概要

- 所属：法学研究科
- 上司：研究科長および副研究科長（研究推進・国際交流）
- 担当：研究推進・国際交流
- 研究支援体制の変化

実際の業務

～たとえばシンポジウムの場合～

準備

実施

事後

事前準備	ワークショップ シンポジウム	事後処理
研究会・勉強会設置 (数回)	現場管理・調整	記録整理・編集
講師や会場の調整・ 交渉	記録	講師に対する フォロー
スケジュールの策定	スケジュールの管理	報告書作成
ロジ準備	ロジ管理	ロジ処理
資料準備	問題への対応	資料整理

→ 次へ
つなげる

実際の業務

- 支援の種類：
 - 研究会・ワークショップ・シンポジウム等の実施
 - 学外調査同行
 - ホームページ・メーリングリスト等管理
 - 予算管理
 - 新規申請サポート
- 支援の基準：基盤研究B以上+支援希望
- 2012年度の場合
 - 科研 8件 総額 約3000万円
 - その他 2件 総額 約2000万円
- 国際交流
 - 招へい研究員・海外提携校からの訪問対応
 - 部局主催の国際的イベント等のサポート

いわゆる
ポストアワード
→
いわゆる
プレアワード

複数サポート
→メリット

国際交流業務 ⇄ 研究支援業務

求められる研究支援イメージ

共に行動し、互いの専門化された一職域を囲み支える

高次のサポート
モジュール化、パッケージ化する。
ネットワーク作り。情報管理。

初期イメージ

「技法」
教員の単発的な思いつきをつなげていく存在。
関与し・支え・高度化していく作業。

事務と教員の橋渡し、どこに「穴」が開きそうか常に観察し、誰もいないことにならないよう気を配り、引き受ける。

求められる人材

好奇心

気づきの心

メカ・IT

仕事を楽しみ、常にできることを探して、期待を上回ろうと思う気持ち。
寄り添い、互いをつなげ、円滑な遂行に役立つ存在。

リエゾンパーソン